

事業所理念	生きる力を育む、そして自立へ				
支援方針	1) 個々の特性や正確等を理解し、さまざまな活動を通してその子が生きていくような支援を行う。 2) 個々の子どもたちが、その子らしく居られる場所作りの支援を行う。 3) あそびと失敗は、最大の学びであることから、個々のペースに合わせた成長の支援を行う。 4) 社会性と考える力を育てる働きかけの支援を行う				
営業時間	平日 9:00～18:00	土曜日・祝日 9:00～18:00	送迎実施の有無	実施しています	
	平日 11:00～18:00	土曜日・祝日 10:00～18:00			
活動	活動内容				
始まりの会	1, 呼名: 大きな声で返事をする、手を挙げて自分を知らせる (健康・生活) (認知・行動) (人間関係・社会性) 2, 人数確認: 数を数を数える (1～10) 活動中に途中参加する友達も把握をし、足した答えを発表する (認知・行動) (言語・コミュニケーション)				
調理 (おやつ作り)	* メニューによる5領域との関連を表示 (別紙参照)				
絵画	定期的に課題を変更、提示し行っている				
運動	感覚統合を主とし、集団の中の自分と個々での自分を見つめる				
リズム	カラオケ・ダンス・リズムトレーニング・音あそび (言葉)				
製作	壁面・作って遊ぶ				
外出	公共施設の使用について学ぶ・金銭の使い方				
帰りの会	* 始まりの会に準ずるが、当日キラリとした一面を発揮した子どもへは「メダル」を渡しています。				

メニュー	5領域との関連性(支援も含む)				
	カレーライスを作ろう 手順	健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション
①必要な材料を考える	身体を作る物を知る → 感染予防の徹底		イメージする	必要量を考える(数量)	人間関係・社会性
②買い物をする			歩く・視る・触る	売り場の物と必要な量を比べる	話し合い等もやってみる
③グループに分かれて調理開始			自分で「やりたい事」を考える	自分で「やりたい事」を考える	・車に気を付けて歩く ・お友達との距離の取り方を学ぶ
④「洗う」グループ			手や道具を使う		自分で「やりたい事」を考える
「切る」グループ			・必要な道具を選ぶ ・正しい道具の使い方 ・怪我をしないように姿勢を安定、保持(両手を使う)	食べやすい大きさ、食材別の切り方を知る 食材の変化を視ながら工程の見通しを持つ 味付けに必要な物の準備と量の調整を行う	手順がわかり行う
「炒める」グループ	苦手な物も食べてみる	口周りなどを綺麗にする	使った食具等を自分で片付ける *両手を使う	食材が変化したこと、五感で感じ取る	・大人の声から状況が分かります(受容言語から表出言語の獲得へ) ・自主的にアピールする方法として言葉を使ってみる(できた！おわった！)
「仕上げ」グループ					
⑤食事開始					
⑥片付け				テーブルの上や下などこぼしていないか自分で確認し綺麗にする	・周囲の状況から勝手な行動をしないよう心掛ける *食べ終わっていないお友達への心使い

家族支援

*それぞれの活動において、子を取り巻く物はすべて環境因子と考えています。お互いを意識し始め、憧れや悔しさの感情から認め合うなど、感情の分化を明確にすることも支援の一つと考えています。保護者の方も、各御家庭では一つの環境となります。お子さん長所・短所を見つめて受け入れながら向かい合っていくとまた違う一面を発見するかもしれません。この点を柱に支援を行っています。兄弟姉妹がいらずにやるご家庭につきましては、(兄弟姉妹の方の心の葛藤が見られ始める時期を見越してこちらから声をかけること(様子を見ながら)心掛けています。とくに、送迎時の様子などから相談になる場合があります。

移行支援	
どのような方向で進めるか、検討中です	
地域支援・地域連携	
* 近隣の施設や、地区で行われる祭りや、フェスティバルに参加しています。他には、作品展への参加があります。	
職員の質の向上	
* 関係機関との連携による情報収集や市開催の研修・連絡会議に参加し、また、SNSによる発信での情報収集を行い、気にある事や未知の出来事にも五感を働かせて、日々精進しています。	
主な行事等	
* 長期休みの間にイベントとして実施しています。また、毎月の活動にも「あそび」として季節の行事を行う時もあります。	